

上村松園 松篁 淳史 三代展

東京富士美術館(八王子) 2022.02.11~03.13

[一点の卑俗なところもなく、清澄な感じのする香高い珠玉のような絵こそ、私の念願とするところのものである] (上村松園 『青眉抄』より)

この「上村松園」の言葉が示すように、彼女は敬虔な眼差しの女性美を突きつめ、その女性像は今なお観る人々の心を魅了するとしている。

上村松園 《琴の音》



本展は、新型コロナウイルス感染症拡大により終了となったために再開催される展覧会である。

展覧会の構成は、「第1部:上村松園(しょうえん)」、「第2部:上村松篁(しょうこう)」、「第3部:上村淳之(あつし)の3部構成で、近代随一の閨秀(けいしゅう)画家と謳われた「上松松園」と息子「松篁」、

そして孫の「淳之」の三代に流れ通う絵画芸術の系譜を辿る企画である。

特に、「第1部」では、「上村松園」の生涯を3章に分けて折々のエピソードや松陰自身の言葉、遺品などを紹介しながら、明治・大正・昭和を女流画家として矜持(きょうじ)を持って生き抜いた松陰の作品に込められた思い、彼女が貫いた信念や人間性に迫るものである。



松園 《人形つかい》



松園 《楊貴妃》



淳之 《月汀》



松篁 《万葉の春》